

秋田県立大学と地域が連携した地域づくりを推進

< 秋田県 >

市町村・集落の名称	能代市常盤地区
協働の相手（企業や大学等）の名称	秋田県立大学 （生物資源学部アグリビジネス学科）
仲介者・コーディネーターの名称	常盤地区住民
協働のポイント	常盤地区では平成15年秋に地域自らが行政と協働で常盤地域の活性化を進めるために「常盤の里づくり協議会」を設立。 同時期に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラムに取り組むこととなり、秋田県立短期大学(当時)と連携し、地域づくりを進めることとなった。
協働のきっかけ・経緯	平成15年秋、秋田県立大学から常盤の里づくり協議会に当該文部科学省事業の実施を依頼。
取組の具体的な内容	1)「親子体感教室」を実施：住民自らが地域の魅力を体感することを狙いに、田植えや稲刈り体験、鮎獲りや昆虫採集、地域の動植物や習慣・歴史についての学習会等を学生らと実施。 2)新たな特産品の開発や既存農作物の差別化 ・オーニソガラム（ユリ科の花弁）の栽培を約10戸の農家が始め、結婚花としてPRするため市内の披露宴会場や花屋の協力を得て「式場ジャック」と銘打ったイベント等を実施。 ・ダチョウ5羽を飼育。 ・こだわりの米作り（白神山地の清流と減農薬で栽培、自然乾燥）を開始し、都内での直販とPR活動を行った。県内コンビニのおにぎり用としても販売。海外販路を模索し、フランスへも試行的に輸出。
農村地域への効果	元気な農業をめざす「親子体感教室」は、ふるさとを守り残していくためには住民自らが率先して考え、行動する必要があることを気付かせるものとなった。オーニソガラムやこだわり米の販売を通して、それらが近隣市町村にも常盤ブランドとして認知され、常盤の魅力をPRすることができ、また新たな交流の発掘につながった。
都市部の主体（企業や大学等）への効果	常盤地区での取り組みをもとに、今後、地域づくりの様々な可能性を研究していくことが出来る。
仲介者等の役割	・常盤地区住民と大学との連絡調整
今後の課題	大学の事業終了後も、常盤地区住民のみで継続して事業を展開していけるか。
関連事業（国・都道府県等）	文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム